

第1回学術大会は、2013年9月21日に神奈川県川崎市産業振興会館にて、60名を超える参加者を得て、盛会のうちに終了いたしました。会の様子について正会員の皆様には「学会ニュースレポート」にてご報告いたします。ご参加いただきました皆様、ご協力いただきました関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

第1回 日本医療催眠学会大会

「癒しの医療 催眠のいま これから」

「日本医療催眠学会の誕生と催眠について」

萩原 優（はぎわら まさる）

日本医療催眠学会理事長

「笑いアクションの心身に及ぼす有用性について」

橋元 慶男（はしもと けいお）

鈴鹿医療科学大学医療福祉学科臨床心理専攻教授

「私と催眠」

村井 啓一（むらい けいいち）

日本ホリスティックアカデミー代表

「医療催眠の視点からみるタッピングタッチ ホリスティックケアの手法」

中川 一郎（なかがわ いちろう）

鈴鹿医療科学大学医療福祉学科臨床心理専攻教授

「はちすのいと LIVE

～即興歌唱におけるトランスと癒しの脳波的考～

はちすのいと

シンガー/ヒプノセラピスト

志賀一雅（しが かずまさ）

脳力開発研究所所長

「シャーマニズムにおける催眠誘導の 現代的アプローチについて」

谷口 はるひ（たにぐち はるひ）

日本フレイムドラム協会会長/心理セラピスト

「催眠のいま、これから」

学会理事によるパネルディスカッション・質疑応答

日時: **2013.9.21(土)**

場所: **川崎産業振興会館**

9F 第3研修室

神奈川県川崎市幸区堀川町66-20

大会長: **萩原 優（はぎわら まさる）**

イーハトーヴクリニック院長

主催: **日本医療催眠学会**

連絡先: **日本医療催眠学会事務局**

（イーハトーヴクリニック内/藤原）

〒225-0002

横浜市青葉区美しが丘2-18-9

ニューライフビル202

TEL 045-902-7240 FAX 045-482-7620

<http://japan-mha.com>



ご挨拶

催眠を多くの方に知って頂き、その良さを感じて頂きたい。そして、催眠を愛する人たちがこれから作り上げる学会です。

そんな思いで出来た学会がようやくスタートします。催眠をどの様にとらえるか、そのダイナミックな展開を感じ、体験して頂きたいです。

講演者の方々もバラエティに富んでおりますので、参加された皆様方 に楽しさと満足感を味わって頂けると確信しております。

是非、多くの方のご参加をお待ちしております。

第1回 日本医療催眠学会 大会長
萩原 優(はぎわら まさる)
イーハトーヴクリニック院長

会場アクセス



※当館をご利用の際は、電車、バスをご利用ください。
JR川崎駅から徒歩8分、京浜急行川崎駅から徒歩7分

前売り【事前振込】 一般 4,500 正会員 3,500 学生 1,500
当日 【現金】 一般 5,000 正会員 4,000 学生 2,000
* 当日ご入会の方 正会員4,000+年会費 5,000 合計 9,000
懇親会【事前申込】 同会場にて立食形式 参加費 2,500

連絡先：日本医療催眠学会事務局 イーハトーヴクリニック内 藤原
〒225-0002 横浜市青葉区美しが丘2-18-9 ニューライフビル202
TEL 045-902-7240 FAX 045-482-7620

第1回日本医療催眠学会 ご案内

テーマ

「癒しの医療 催眠のいま これから」



日時 2013. 9. 21 (土)
場所 川崎産業振興会館
9F 第3研修室

神奈川県川崎市幸区堀川町 6 6-2 0

主催 日本医療催眠学会
大会長 萩原 優(はぎわら まさる)
イーハトーヴクリニック院長

Japan Medical Hypnosis Association.
JMHA 日本医療催眠学会

講演者ご紹介

「日本医療催眠学会の誕生と催眠について」

萩原 優(はぎわら まさる)
イーハートヴクリニック院長
日本医療催眠学会理事長
NPO法人ほあーがんサポートネットワーク代表
広島大学医学部卒業
30年以上に渡り消化器外科、内視鏡的診断・治療、緩和医療に従事。日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会認定指導医、日本緩和医療学会評議員

本学会の設立は2012年の春、副理事長の橋元慶男先生との出会い。長年、心理学や笑いの実績のある先生が「催眠は素晴らしい」とその良さを認めて下さった事に端を発する。「医療」と名がついているが、通常の医療という概念から離れ、医療＝癒しと捉え、催眠を広い解釈をして今後参加者の皆様方により作り上げられる会。10年、20年先に花が開く様な会を期待。私の催眠に対する考え方も、体験するに従い変わり、日常生活でも催眠状態をどれだけ体験しているか、それは「意識」という言葉が広い意味があり、心理療法のみならず精神世界にも通じており、それらについて述べる。

「私と催眠」

村井 啓一(むらい けいいち)
日本ホリスティックアカデミー代表
日本医療催眠学会監事

一般社団法人日本臨床ヒプノセラピスト協会代表理事

40代後半からヒプノセラピーを学び始める。2002年以降はヒプノセラピスト、ヒプノセラピー講師として活動。ヒプノセラピー全般を教え、ヒプノセラピーの個人セッションも行っている。

今現在私はセッションの中で過去から引き継いだ有効な催眠療法の方法と現代の脳科学の知識を組み込んだ新しい方法など様々な方法を使用。その中には、年齢退行療法、前世療法、胎児期退行療法、未来世療法といった時間軸を利用したものや、悲嘆療法や前世療法といった魂の癒しを扱うトランスパーソナル的なもの、エリクソンが用いた行動パターンを変えるもの、自己啓発法としてイメージワークや暗示を与えるものなど多種多様なもの。
講演では催眠を利用した癒しの方法論を認知行動・感情・感覚・身体・魂といった幾層かに分けて考察し、実際にどのようにそういった方法を用いているのかを紹介する。

「笑いアクションの心身に及ぼす有用性について」

橋元 慶男(はしもと けいお)
鈴鹿医療科学大学医療福祉学科臨床心理専攻教授
日本医療催眠学会副理事

臨床心理士・精神保健福祉士・社会福祉士
日本笑い学会理事・三重支部長

最近、笑いが心身の健康の増進や改善に有効であることが報告されている。
その効果については、心理的なストレス解消効果、社会関係の改善のみでなく、免疫力向上なども報告されている。笑いは大量の酸素を取り入れ腹式呼吸と同じ血中の酸素量が増え血行を促進し全身の代謝が良くなり、脳や体をリラックスされて不眠を解消し易く、日中、笑いアクションを実施し、就寝・起床時に適度の笑い動作を行うことで理想的な睡眠サイクルを整えることもできる。笑い動作や笑い声の心身に与える影響を考察して、Motion creates Emotion(動作が感情を引き起こす)の身体心理学の視点から、心身のwell-beingに対する介入方法として、笑いアクションの心身に及ぼす有用性について報告する。

「医療催眠の視点からみるタッピングタッチホリスティックケアの手法」

中川 一郎(なかがわ いちろう)
鈴鹿医療科学大学医療福祉学科臨床心理専攻教授
日本医療催眠学会理事

臨床心理学者、カリフォルニア大学バークレイ校(UC Berkeley)を卒業後、ローチェスター大学で臨床心理学博士号取得。サンフランシスコ総合病院などを経て、現在、鈴鹿医療科学大学 医療福祉学科臨床心理専攻教授、三重大学医学部看護学科講師、タッピングタッチ協会代表、ホリスティック心理教育研究所所長。タッピングタッチの開発者として、国内外において、介護・看護・教育・被災者ケアなど、多岐にわたる場でホリスティック(統合的)ケアのアプローチに関する実践・研究・教育をおこなう
タッピングタッチは、指先を使って軽く弾ませるようにタッチすることを基本としたホリスティック(統合的)でシンプルなケアの手法。誰にでもできる簡単な技法でありながら、不安、緊張、痛み、うつ状の緩和などの効果があり、信頼やスキミングを深めることができる。講演では、タッピングタッチによる心理的影響を「変性意識」の視点から考察し、催眠、瞑想、座禅、心理療法などとの関係を検討する。また、体験学習を通して、医療、看護、心理、教育、介護などの専門分野での利用や、苦悩の多い現代社会における効用について考える機会にしたいと思う。

プログラム

9:20	開場 ～ 受付
9:40	開会
9:45～10:25	萩原 優 日本医療催眠学会理事長 「日本医療催眠学会の誕生と催眠について」
10:30～11:10	橋元 慶男 副理事長 「笑いアクションの心身に及ぼす有用性について」
11:15～12:00	村井 啓一 「私と催眠(療法)」
12:00～13:15	～～ 昼休憩 ～～
13:15～13:30	総会
13:30～14:10	中川 一郎 「医療催眠の視点からみるタッピングタッチホリスティックケアの手法」
14:15～14:55	はちす のいと、志賀一雅 「はちすのいとLIVE～即興歌唱におけるトランスと癒しの脳波的考察～」
15:00～15:40	谷口 はるひ 「シャーマニズムにおける催眠誘導の現代的アプローチについて」
15:40～16:00	～～ 休憩 ～～
16:00～16:45	学会理事によるパネルディスカッション・質疑応答
16:55	閉会の言葉 橋元 慶男
17:00	閉会
17:30～19:00	懇親会 (事前申込)

講演者ご紹介

「はちすのいとLIVE～即興歌唱におけるトランスと癒しの脳波的考察～」

はちす のいと シンガー/ヒプノセラピスト
クラシカルロックバンド『夢中夢』に在籍
2012年『Magdala』名でアルバム発表。2013年瀬戸内芸術祭関連公演へ招聘
志賀一雅(しが かずまさ) 脳力開発研究所所長
電気通信大学卒 松下電器産業入社、東京大学物性研究所にて半導体物性を研究、脳波の研究 東海大学・徳島大学講師、電気通信大学大学院人間情報学研究科研究員、日本バイオフィードバック学会会員

音楽は深いトランス状態への誘導、時には記憶退行など、オーディエンスにヒプノセラピーと類似の効果を与える。実際のライブコンサートでも多く見られるこうした現象を科学的に検証するため、演者(セラピスト)とオーディエンス(クライアント)との間の脳波的な関連を調べたところ、ライブ・コンサート、ヒプノセラピーともに、演者(セラピスト)の脳波は8Hzが優勢になり、それに伴いオーディエンス(クライアント)側の脳波も8Hzの成分が増加して両者の脳波的共鳴の頻度の増加がみられた。これらの事実からセラピストが先にトランス状態に入って施術すると、脳波的共鳴も相まってセラピー効果が高まるように思われる。今回は、ライブ・コンサートをお楽しみいただくとともに、これまでの実験から得られた測定結果と考察を発表する。

「シャーマニズムにおける催眠誘導の現代的アプローチについて」

谷口 はるひ(たにぐち はるひ)
(株)ネクストセンス代表取締役、心理セラピスト
日本フレームドラム協会会長、統合心理セラピスト／マインド・コンサルタント
東海大学大学院人間環境学研究所「居ごち学会」顧問
「α波1/fゆらぎ音楽」CD制作や日本陸上選手の音楽によるイメージトレーニング計画等に関わった後、現在は心理療法家としてセミナーやセッションを行う。また世界最古の太鼓フレームドラムの研究・普及活動にもあたる。
シャーマニズムの伝統の中に太鼓の音を使用して深いトランス状態に入り、神霊の言葉をもらうというものがある。実際に体験してみると太鼓の音は催眠療法で使われるシータ波＝瞑想状態を導きやすく、またその手法も非常に催眠療法と酷似していることに気づく。講演では世界各地で使用されるシャーマンドラムや催眠誘導方法の紹介に加え、それをいかに安全にセラピーとして行うか、被験者から得た施術前後のフェーズスケール調査の結果を含めて説明する。またこの古代の叡智を取り入れた誘導瞑想法をコミュニティの中で行うことにより、それぞれの心の体験を分かち合い「互いを理解し共生する社会の構築」に生かせないか提案したい。